



愛と創造

十中生の学力・学習状況について

今年4月に、全国の小6年、中3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査の目的は、

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため
- ②教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するため
- ③児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用するため、

となっています。調査の内容は、「国語A」・「数学A」（主として知識に関する問題）、「国語B」・「数学B」（主として活用に関する問題）、生徒の学習状況等に関する質問です。なお、この調査で測定できる「学力」とは、上記2教科の学力全体の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを付け加えておきます。

十中の平均正答率は、国語・数学とも相対的に高く、学習の成果が上がっていると言えます。十中では、すべての授業で「つけたい力」の明確化、「他者との学び合い」がある授業の工夫、「見通し」と「振り返り」の3つの視点を意識した授業づくりを目指し、継続して実践しています。その結果、「振り返り」のさせ方など課題が見られるものの全体としては、自分の考えを相手に伝える力の向上など一定の成果が見られました。

2 学習状況調査で望ましい状態にある項目

- テレビやゲームをする時間等のルールを家の人と決めている。
- テレビやビデオ等の時間、ゲーム・メール・インターネットの利用時間が短い。
- 原稿用紙2～3枚の感想文や説明を書くことを苦にしない。
- 話し合い活動を通して、考えを深めたり広げたりすることができている。
- 授業の復習をする生徒が多い。

3 学習状況調査で課題となっている項目

- ▲授業の最後に学習内容を振り返る活動が十分ではない。
- ▲授業中、ノートに目標やまとめを書く活動が十分ではない。
- ▲授業の予習をする生徒の割合が多くない。

4 十中生のよさ

- 自己肯定感（自尊感情）が高い。
- 地域や社会をよくするため何をすべきか考える姿勢が見られる。
- 基本的な生活習慣が定着している。